

医学教育におけるOSCEの実際と獣医学教育への応用

日本獣医生命科学大学
鷺巣月美

資料提供
日本医科大学 教育推進室
室長・教授 志村俊郎

医学部における共用試験

- OSCE
 - **OSCE Objective Structured Clinical Examination**
 - 態度・技能を評価するための客観的臨床能力試験
- CBT
 - **Computer-Based Testing**
 - 知識を評価するためのコンピューター試験

OSCE（客観的臨床能力試験）の目的

- ・これまでの医学教育では、講義による知識伝授が主体
- ・診療に必要な技能・態度の教育が十分でなかった
- ・医師国家試験合格のための詰め込み教育の弊害

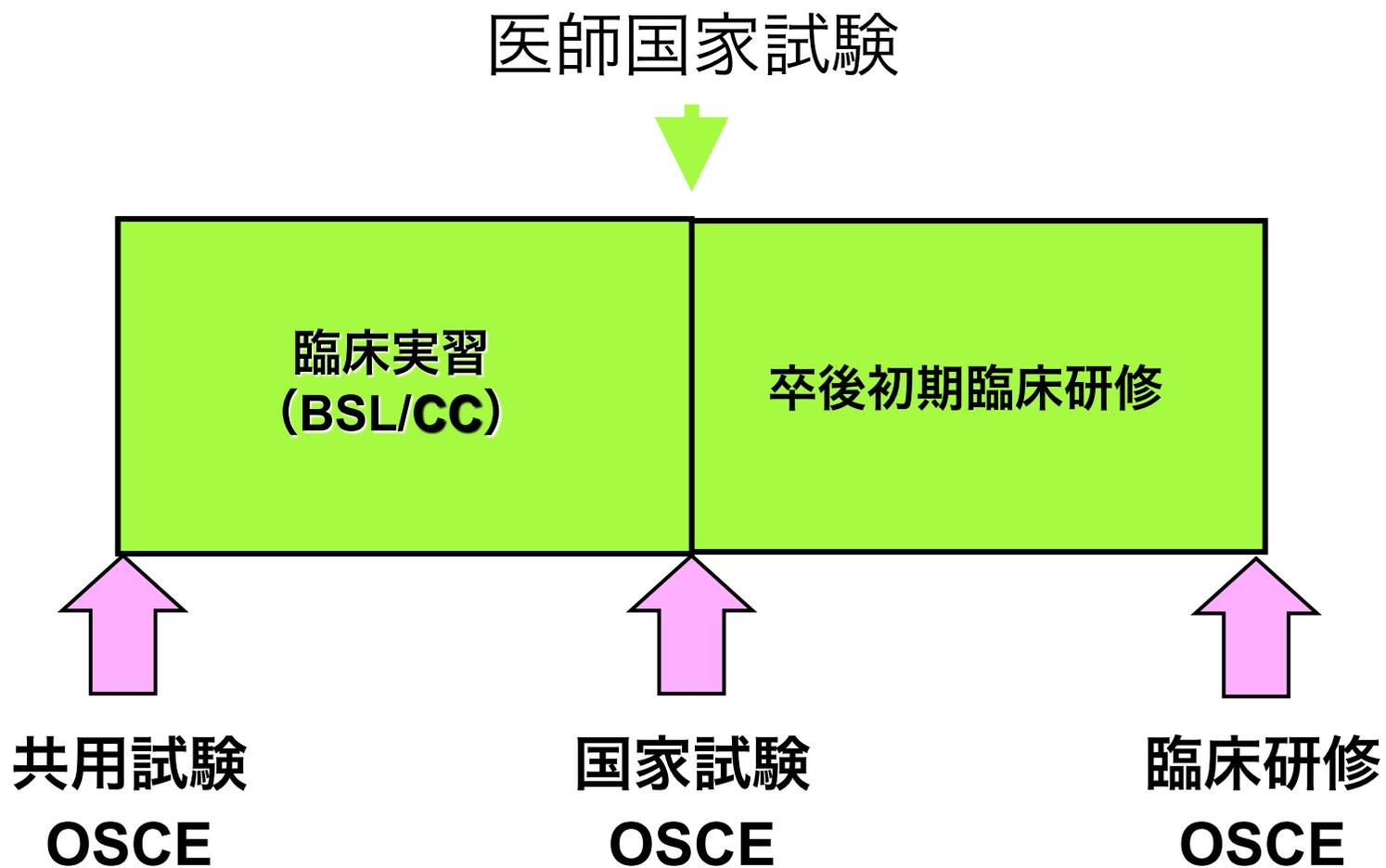


- ・診療参加型実習の重要性が指摘される。
- ・学生が臨床実習で、患者さんと接する場合は、必要不可欠な知識、技能、態度が備わっている必要がある
- ・また、これを全国的に一定水準以上に保つ必要がある



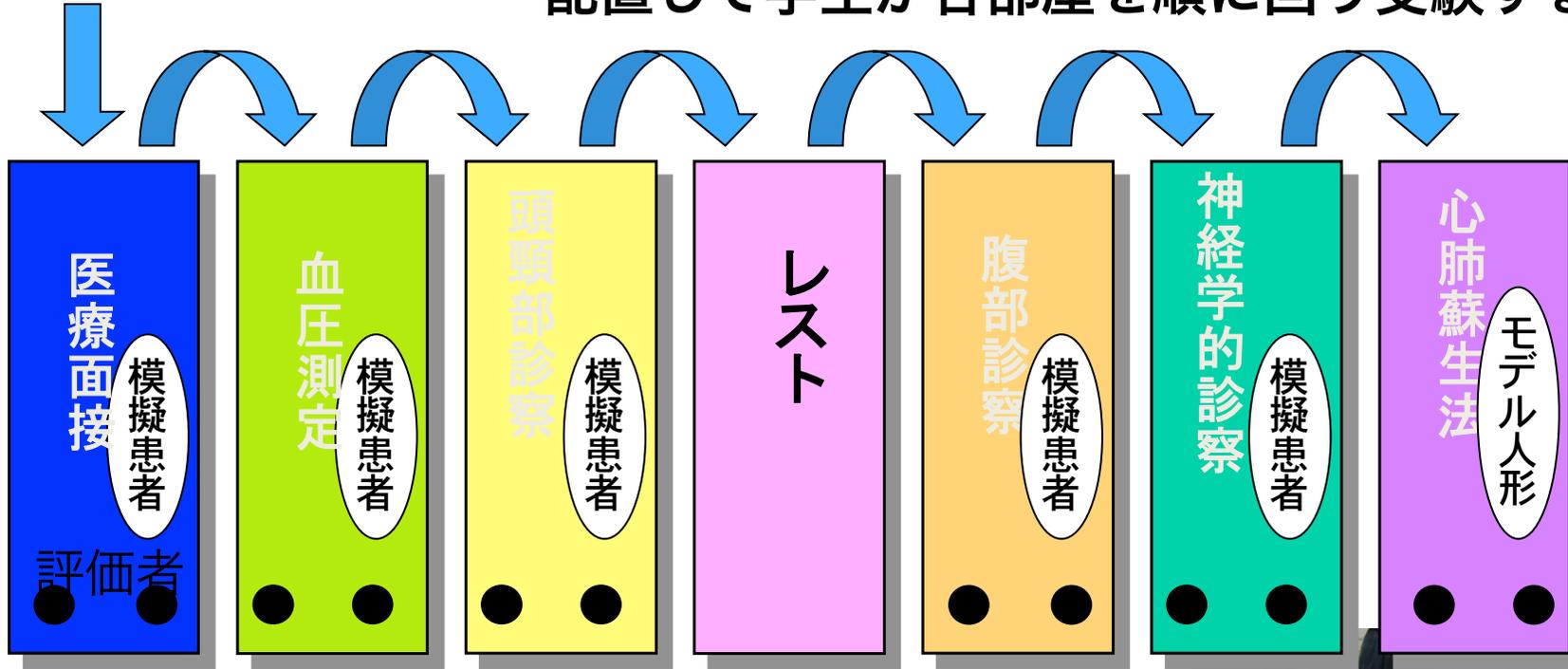
OSCE 共用試験

共用試験・国家試験・臨床研修OSCE



4年生OSCE

特定の診察技法を課題にしたステーションを配置して学生が各部屋を順に回り受験する



OSCEの事前学習

OSCE実施前には各大学における診察技能や態度についての事前学習が重要である

- 実技能力については一定時間内に適切に行う訓練を行う
- 学習・評価項目に対応した標準的手技についての画像資料（DVD）が各大学に配備されている（教育推進室のHPから閲覧可能）
- 病棟診断学実習においてDVDを見ながら診察実習（SGL室）
- 救急医療、シュミレーター診察：クリニカル・シュミレーションラボ：教育推進室のHPから予約
- 外科手技：基本臨床実習でコースで1月に3回指導がある（その後縫合セットを練習のために各自に貸し出す）

医療面接実習(4年生)



「総合病態を考える」では、SPが髪をかぶったり（老人科）、乳児シミュレータを抱いて（小児科）臨場感を演出

SP参加型実習



乳児シミュレーター 母子手帳

診察に関する共通の学習・評価項目

- (1) 医療安全
- (2) プライバシー、羞恥心、苦痛への配慮
- (3) マナー・身だしなみ
- (4) 言葉遣い
- (5) 挨拶や説明

医療面接

- (1) 診察時の配慮
- (2) 導入部分: オープニング
- (3) 良好な(共感的)コミュニケーション
- (4) 話を聞く: 医学的情報
- (5) 話を聞く: 心理的・社会的情報
- (6) 締めくくり: クロージング
- (7) 全体を通して
- (8) 報告

a.

臨床技能トレーニング



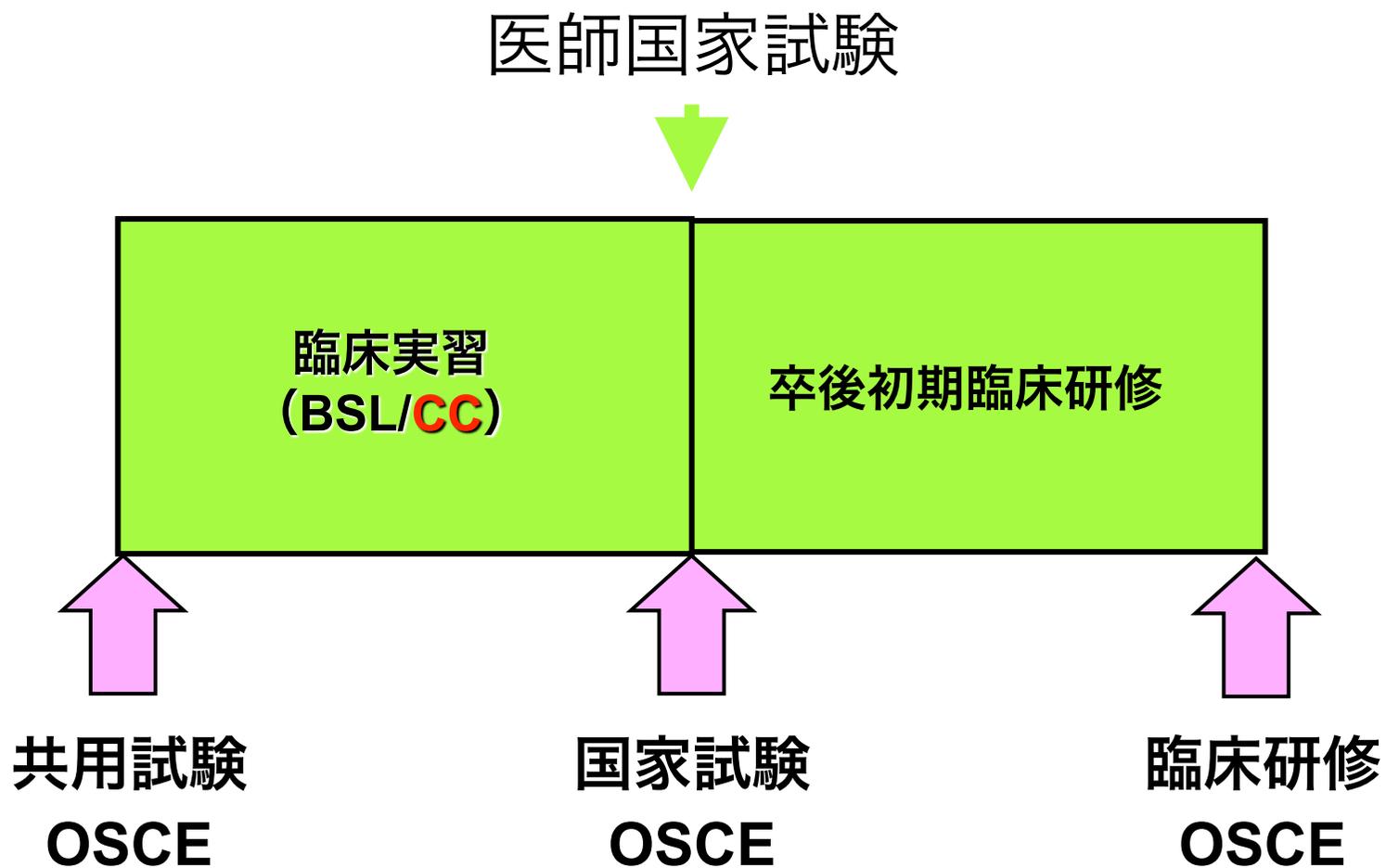
シュミレーターを用いた実習

OSCE評価者

- 内部評価者（大学内部の教員）
- 外部評価者（他大学教員）

**共用試験実施評価機構が開催する評価者
講習会を受講した認定評価者**

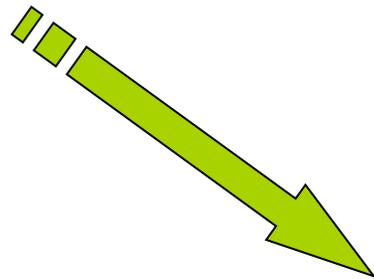
共用試験・国家試験・臨床研修OSCE



Advanced OSCE



医療面接 (10分)



臨床推論
治療方針
(5分)



Advanced OSCE



医療面接
SPは不整脈の患者を演じる



医療面接後の身体診察
シミュレータで身体診察をしている間も声で演技する

*SPはチアノーゼのメイキャップ

コロラド州立大学 臨床コミュニケーションラウンド



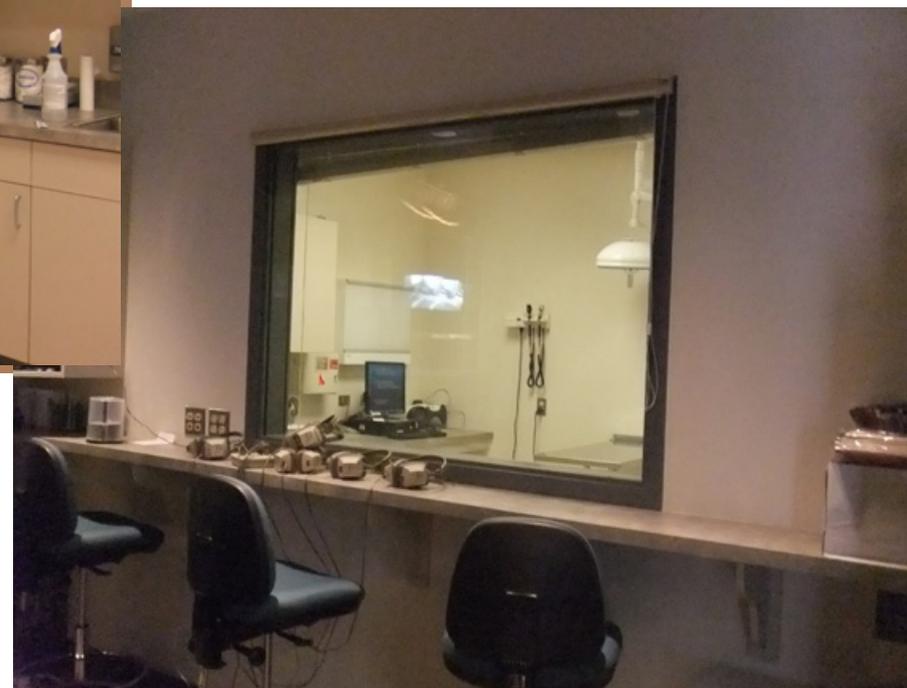
コミュニケーションラウンド (基礎編)

- 1班: 20-25人 (6班 / 1学年)
- 病院ラウンド実習の1つ
- 他の5班の学生は他のセクション(大、小動物計16)でラウンド実習

コミュニケーションラウンド

- 3年次前期(基礎編)
 - 1週間
 - 模擬クライアント
- 3年次後期(上級編)
 - 1週間
 - 模擬クライアント
- 4年次
 - プライマリーケアラウンド時
 - 実際のクライアント

コミュニケーション実習用診療室



コミュニケーション実習用診療室



コミュニケーションラウンド (基礎編)

- 1週間(月～金曜日)、午前中
- 月、水、金曜日:小グループで講義&実習
 - 5人/グループ x 5グループ
 - Vet とクライアントのコミュニケーションデモ
 - インストラクター:3人
- 火、木曜日に模擬クライアントと実習
 - 模擬クライアント&コーチ各1人/学生5人

模擬クライアント実習

- 1グループ
 - 学生5人
 - 模擬クライアント1人
 - コーチ1人
- 模擬クライアントがローテイト
- 各セッション毎に学生の役割交代
- すべての役割を経験する
- DVDに録画
 - 各自自分の録画を再生し、レポート作成、翌日提出
 - 出来たこと
 - 出来なかったこと、反省点、改善点
 - どうしたら良かったかなど

模擬クライアント実習の流れ1

- 役割分担を決める
 - SCと面接する学生
 - SCと面接する学生以外の4人は、以下の評価を行う
 - Initiation
 - Gathering information
 - Providing structure
 - Building relationship
- SCと面接する学生のゴールを確認
- SCと面接する学生がケースのプロフィールを紹介
- 実際にSCと面接する学生とコーチ以外は別室に移動

面接前ミーティング



模擬クライアント実習の流れ2

- 面接開始後、学生がスタックor脱線した時にコーチが介入(面接時間:15分)
 - 学生に提案and/or学生の自発的な考えを引き出す発言をする
 - 面接再開

面接中



模擬クライアント実習の流れ3

- 面接終了
 - 最初にSCと面接した学生がコメント
 - SCと面接した学生以外の4人が、評価を行う
 - Initiation
 - Gathering information
 - Providing structure
 - Building relationship
 - 最後に模擬クライアントがフィードバック

面接終了後ミーティング



模擬クライアント

- プロの俳優を雇用
- 医学部でも模擬クライアントとして活動
- \$72000/年
 - 5人／回
 - 延べ120人／年
 - \$600/人/回
 - 実習報酬(／時間)
 - 交通費
 - 通勤時間(／時間)

コーチに対するフィードバック

- コーチもトレーニングの対象
- コミュニケーション実習の専任担当教員らによるコーチ教育
 - 担当教員らが学部屋を順番に回り、コーチを観察しコメントする
- すべての面接終了後、コミュニケーション実習の専任担当教員とコーチのミーティング
 - 各グループの評価、必要に応じて個々の学生の評価
 - 問題のあった学生に対する次回面接までに必要な対処
- 次回面接時の症例の説明
 - どのようなことをtryするのに適した症例か
 - どのようなゴールを設定した学生に適した症例か

日本獣医生命科学大学における 臨床コミュニケーション教育



臨床コミュニケーション実習

- コミュニケーションに関する講義
- 模擬クライアントを配した実習
- 面接終了後ミーティング

コミュニケーションに関する講義

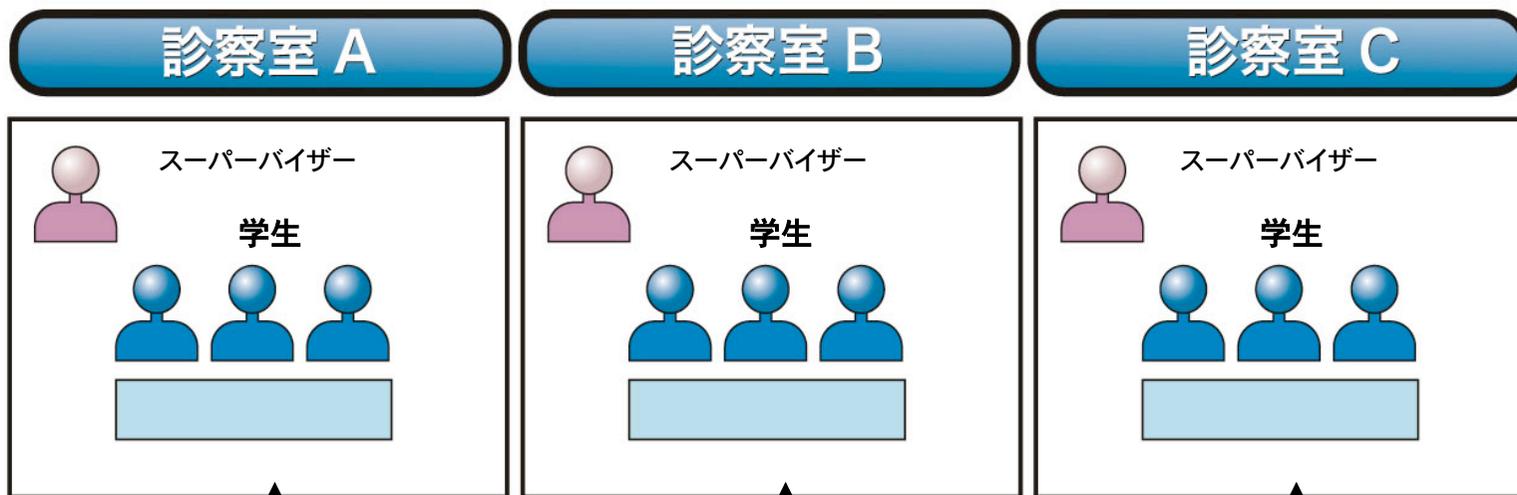
- コミュニケーションの基本
 - 身だしなみ、言葉遣いも含む
- 基本シナリオ
- 医療面接の進め方

模擬クライアントを配した実習

- 実習時期
 - 5年生後期
 - 6年生前期
- 実習場所
 - 大学附属動物医療センター
- 班構成
 - 学生3人／班(3班／日)
 - 模擬クライアント3人／日
 - スーパーバイザー1人／班

模擬クライアントセッションイメージ

3つの診察室にそれぞれ3人の学生と1人のスーパーバイザーを配置



別々の台本を習得した3人の模擬クライアントさんがそれぞれの診察室を回り、各一人ずつの学生さんとセッションします。



学生の役割分担

- 獣医師役
- 獣医師を観察
 - バーバル&ノンバーバルコミュニケーション
 - 共感的な発言&態度
- 模擬クライアントを観察
 - 表情&仕草から感情の動きを推察

実習の流れ1

- オープニング
 - 診療室への呼び入れ



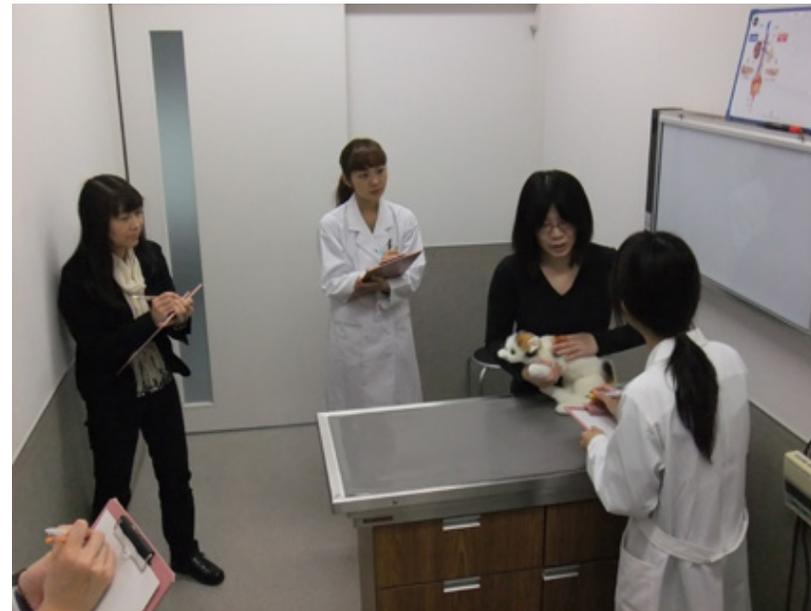
実習の流れ2

- オープニング
 - 挨拶
 - 自己紹介
 - クライアントおよび動物の確認



実習の流れ3

- Open-ended question
- Focused question
- Closing



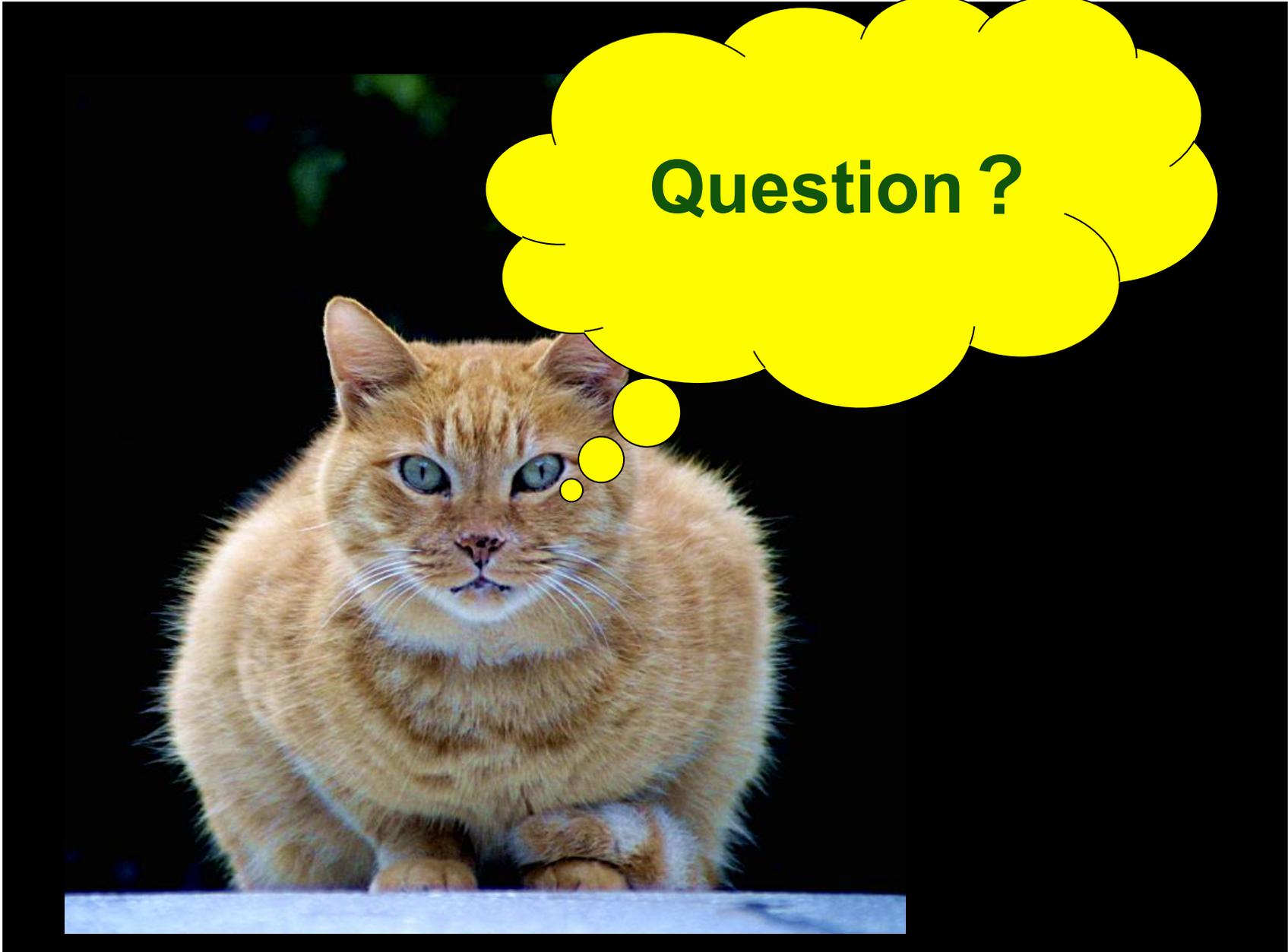
面接実習終了後ミーティング



- 学生9人(3人x3班)
- スーパーバイザー
- オブザーバー

日本獣医生命科学大学のOSCEへの対応

1. 今年度からコミュニケーション（動物医療面接）実習開始
2. 24年度4月「獣医学教育イノベーション推進室」
（室長は鷺巣教授、3人の兼任教員）を立上げ
 - ・ OSCEの内容検討（医学部のアドバイス）
 - ・ CBTの問題作成
 - ・ 模擬クライアントの養成
 - ・ 面接シナリオの作成
3. コミュニケーション実習の単位化
4. 動物モデル（ラバーモデル）の準備：提携校タイ・カセサート大学の協力（気道の確保、採血、聴診などの練習）



Question ?



Thank you for
your attention!